

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799500067		
法人名	社会福祉法人ブロードハーモニー		
事業所名	グループホーム ふれ愛四季の郷		
所在地	大阪府大阪市尾崎町504番1		
自己評価作成日	平成30年5月10日	評価結果市町村受理日	平成30年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な環境で尊厳ある日常生活と安心して心地よい生活空間を提供できるよう努めています。 ・毎日の生活の中にある何気ない「喜び」や「楽しみ」「出来ることの支援」を大切に「入居者様とともに」を心掛け、お手伝いが積極的していただけるよう援助しています。 ・毎月全員参加で季節を感じる行事を、入居者様・職員が一緒に取り組み実践しています。家族様にもできる限り参加していただけるよう声掛けしています。 ・買物や外食等の外出の機会を多く持つとともに、毎日の日課として散歩や外気浴を楽しみ、体力の維持向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成24年4月に開設された複合施設「ふれ愛四季の郷」は、1階に小規模多機能施設、2階半分はグループホーム、2階半分と3階に特別養護老人ホームがある。また昨年6月には、徒歩約5分の所にやや大きめの複合施設「第2ふれ愛四季の郷」が開設された。併設施設合同で避難訓練の実施、各種委員会・会議・運営推進会議の開催、利用者同士の交流など、連携が密である。毎年度全職員参加で目標を立て、今年度は「全員参加での季節行事の実施」と、「入居者とともに行動し積極的なお手伝いを援助する」旨を掲げて実践している。看護師を配置して色々なアイデアで工夫しており、常時オムツの人がいない、風呂嫌いな人がいないことも、きめ細かなケアの現れと思われる。地域の方々との双方の交流も盛んで、地域に根差した施設となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに、グループホーム独自の目標をあげてリビングに掲示し日々実践している。職員会議やカンファレンスでは理念や目標に基づきケアにあたるよう話し合いを行っている	毎年度全職員参加で事業所独自の目標を設定し、玄関・フロア・事務所に提示して利用者・家族にも周知している。今年度目標は「①毎月全員参加で季節を感じる行事を実施します。②入居者様とともに行動することを常に心掛け、お手伝いが積極的にしていただけるよう援助します。」としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺は地域の方々の散歩コースになっており、利用者も散歩や外気浴を行い挨拶会話ができています。地域のスーパーに買い物に行ったり、地域カフェに参加するなどできる限り外出する機会を多く持つようにし馴染みの方と会うこともある	町内会に加入し、夏祭り・地域カフェ・ボランティアフェスティバル・作品展・RUN伴(認知症の啓発イベント)など地域の行事に参加している。また施設夏祭りへの子供会・住民の参加、子供会の廃品回収・慰問、各種ボランティアの受け入れなど、双方向の交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回想法・生け花・習字教室をボランティアに依頼し、地域の方々の協力を得ながら認知症の理解の輪を広げている。子供会の廃品回収や慰問もあり、施設夏祭りには子供会・地域住民参加で交流に励んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況・日々の取り組み・活動状況の他にも事故やヒヤリハット・大きな問題点などについて改善策を報告している。会議での意見や質問内容は議事録作成の上、職員会議で報告しサービス向上に活かせるよう話し合っている	奇数月の第2木曜日に小規模多機能施設・小規模特養と合同で開催し、市役所担当者・地域包括職員・町内会役員・コミュニティソーシャルワーカー(地域相談員)・利用者と家族(交代)、施設長・各施設管理者・管理栄養士が参加している。議事録は家族に配付し、不参加者にも知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や地域包括の担当者とは相談・指導を受けながら協力関係を築き、運営推進会議にも出席していただき情報を伝え質の向上を図っている。毎月2名の介護相談員の訪問やケアマネ連絡会にも出席している	市介護保険課・生活支援課とは常に協力関係にある。他地区に住む親の入所について親身になって交渉し、実現したこともある。また地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会や事業所連絡会に出席して交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回/2ヶ月身体拘束委員会を開催し、各ユニットから委員1名を選出・委員長進行のもと身体拘束に対する報告や職員の認識・意見を話し合い緊急時は必要に応じて臨時会議を開催している。日中はエレベーター・玄関は施錠していない	マニュアルを整備して年1回研修を行い、不参加者にも管理者が個別に指導している。施設全体の身体拘束委員会に参加し、身体拘束のないケアを目指している。日中はエレベーター・玄関は施錠しておらず、万一の時には地域の方々に見守りをお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/2ヶ月身体拘束委員会開催時に虐待防止について話し合いを行いケアに取り組んでいる。小さな怪我や内出血なども見逃さないよう周知を図り原因の究明に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については毎月1回開催する年間勉強会計画にも組み込み、学ぶ機会を持っている。日常生活自立支援事業や成年後見人制度は必要のある方には家族様や関係機関と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に書面にて提示し契約書・重要事項説明書は全て読み上げ質問内容には十分に説明している。改正の際には同意書を作成し説明の上、利用者・家族様から署名・捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは意見や不満を言いやすいよう1対1で話す機会を設け、家族様の面会時には必ず要望や意見を伺い話をしている。苦情相談窓口・意見箱・年2回の家族会・介護相談員の報告も職員間で情報を共有し運営推進会議には家族様と利用者が毎回交代で参加してもらっている	全く訪問しない家族はおらず、誕生会や行事・家族会・運営推進会議には参加への声かけをし、意見・要望を聞くよう努めている。利用者・家族から把握した意見・要望は申し送りノートで共有し、スタッフ会議で話し合っ運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のスタッフ会議だけでなく普段から積極的に意見や提案を出してもらえる雰囲気作りを心掛け発言してもらっている。2回/年自己評価表の提出とともに管理者との個人面談を設けている	毎月のスタッフ会議のほか、施設全体が参加する7委員会・ケアマネジャー会議・リーダー会議などで職員が意見を述べる機会が多く、管理者も報告を受けて把握している。日常的な活動中や面談などでも個別に職員の意見を聞くように努めており、運営への反映事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用後、個々の事情による労働時間や休日の調整等を行っている。やりがいについては得意な分野に担当を持ってもらい向上心と達成感を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎介護技術・チェックリスト表により自己評価を行っている。施設内外の研修を受ける機会を多く持つようにし、1回/月の勉強会では研修報告や外部から講師を招いて研修などを開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設への訪問や勉強会に参加したり、毎月の自施設での勉強会にも案内状を出し参加を呼び掛け交流を図るとともに、わからないことがあれば訪問や電話で相談もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人・家族様の望んでいる生活や要望などを確認し、不安なく安心して生活できるようにスタッフ間で情報を共有するとともに家族様にも協力を依頼し信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気作りを心掛け、入居前の面接により本人・家族様のニーズを把握し、入居後も面会や外出の機会を持ってもらうことで精神的支援の関係をともに築いていけるよう働きかけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後生活の場が変わっても、ADLや健康面・精神面など十分に話を聴き、個々に応じた適切なサービスが利用できるよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にあった役割やできることを見出し「暮らしを共にしている」「入居者様とともに」という意識を常にもつよう心掛け、それを第一としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昔の話・生活歴を聴きながら家族関係の理解に努め、中立の立場でよい関係が築けるよう支援している。入居後も家族様との絆を大切にしたいと面接時に話し、家族様にしかできないことや協力を常々声掛け依頼し精神的支援を図ってもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の面会によって精神的な安定を保たれている方も多く、面会時には一緒におやつを食べたりレクリエーションも楽しんでもらっている。馴染みの場所への外出はスタッフだけでなく家族様にも常々声掛け依頼している	利用者のかつての近所の友人・知人の訪問があり、併設施設内の友人や兄弟に会ったり、親族の葬儀や法事に出かける人もいる。馴染みのスーパー・商店・美容院を利用する人もいる。また併設の他施設の利用者と馴染みになった人もおり、継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性・関係性をしっかりと把握しスタッフが間に入ってコミュニケーション作りに努めているソファや座席の位置にも配慮している。必要に応じて部屋替えを検討することもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には文書や電話等で関係者に情報を伝えている。また退居後も相談や支援に努め関係性の構築に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり・利用者の言動・家族からの情報等により希望・意向の把握に努めている。把握しづらい場合は日々の生活の中から気持ちを汲み取るよう努力している	ほとんどの利用者が希望・意向を表出できるが、把握しにくい人は話しかけへの反応などで察知し、リーダー・管理者・看護師に伝えて対応を検討している。また希望・意向は申し送りノートや会議録・各種報告書の回覧によって職員間で共有し、反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族・関係者から「過去」「現在」の生活歴や意見を聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動障害など目立った症状だけでなく、現状を総合的にとらえ記録していくことで状態の把握と共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスを定期的または総合的に行い、本人の視点で検討し介護計画書を作成している	入居前の事業所や自宅での面談でアセスメント表を作成し、暫定計画を立案する。2週間実施後に、介護記録や関係者の意見を基に、正式な介護計画を作成している。長期目標1年・短期目標6か月とし、毎月モニタリングし、家族・職員・看護師・ケアマネジャーによるカンファレンスを行って6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきは個別記録に記入している。ミーティングや申し送りで情報を共有し介護計画書を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に仕事があったり高齢などの理由により日常的な支援が困難な方もおられるので、必要に応じて受診の付き添い・買い物などの外出支援など柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生け花・習字・回想法ボランティアに支援していただいたり、普段の会話の中から引き出した本人の想いにそった柔軟な対応を心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、これまでのかかりつけ医の受診継続を実施している。事業所協力医療機関の受診希望の場合は本人・家族の同意の上、協力医療機関で受診できるよう対応している	本人・家族の同意を得て、全員が協力医をかかりつけ医としている。内科は月2回往診があり、希望者は週1回の歯科医・歯科衛生士、月1回の精神科の往診を受け、週3日整骨院のマッサージ・歩行訓練を受けている人もいる。整形外科・眼科などの専門医を家族同伴で受診している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専任の看護師と連携を図りながら日常の健康管理を行い、個々の利用者が外部受診など適切に受けられるよう支援している。医療以外でも栄養や介護のことまで判断に困ることの助言も受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報の提供を行い、入院中も家族様・病院関係者と連絡をとり経過を入手し、退院にむけて環境を整える支援に努めている。退院時には家族同席の上、病院関係者とのカンファレンス開催を依頼している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族様には重度化した場合の意向確認を行い、同意・了解を得ている。状態は変化した時は再度、本人・家族様の意向確認を行い、話し合いのもと適切なケアにむけて支援している。「看取りに関する指針」「同意書」も作成している	入居時に「看取りに関する指針」を説明し、同意書を取るとともに、「延命治療についての意向確認書」を交わしている。終末期には本人・家族・医師・看護師・職員が十分話し合って検討・対応している。過去に1例の看取り経験があり、研修を行って職員の対応法をさらに周知したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備え研修を行うとともに、マニュアルを作成している。「夜間急変時の対応シート」については、個々にシートを作成し直ぐに確認できる所で保管している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し消防署指導にて利用者参加のもと年2回避難救出訓練(夜間想定も)を実施し、災害時緊急連絡網・避難経路図・防災対策委員会等の整備をしている	施設全体で防災対策委員会を設置し、防火防災と災害対応を検討している。年1回は夜間想定自主避難訓練、1回は消防署立ち合いの避難訓練を施設合同で実施している。各フロアに非常袋を設置するとともに、施設全体の備蓄品を2日分用意している。	河川や海に近い立地のため、水害・地震・津波対応の訓練を実施することを望む。また有事の地域の対応として、徒歩約5分にある「第2ふれ愛四季の郷」や今秋開設する近隣の特別養護老人ホームに協力要請することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を把握し「思いやりや笑顔」での言葉・声掛け等に努めている。馴れ合いの中で本人を傷つけるような発言や行動があった時は職員間で互いに注意し、身体拘束委員会では「スピーチロック」についての話し合いも積極的に行われている	法人が外部講師を招いて、プライバシーの確保や身体拘束の具体例をあげた勉強会を実施している。トイレや入浴の誘導時には小声で声かけしているが、不適切と気がついた時点でユニットリーダーなどが注意して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外食などの外出支援や行事などで自己決定してもらえるよう働きかけ望みの把握に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者間のコミュニケーションが図られるよう、日中においてはできるだけフロアで過ごしていただけるよう声掛けしているが、居室で過ごされことを好まれる方については決して無理強いせず居室で過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣替えを支援し来客・外出時のおしゃれ・身だしなみを利用者とともに考え・支援している。衣服の買い物にスタッフと一緒にいくこともある。カット・パーマ・毛染めは要望した時にいつでも訪問してくれ利用者の希望に応じたスタイルでしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託の厨房により食材提供を受け、野菜の皮むきなどできることを手伝ってもらいながらスタッフが毎食調理している。月に1回は朝から利用者全員が顔なじみのボランティアさんと一緒にGH独自のメニューを手作りし、週1回の手作りおやつも楽しんで一緒に行っている。毎日のお手洗い担当も決めている	給食委員会を設置し、メニューの立案や食事内容の評価・改善を行っている。職員も利用者と一緒に介護や会話をしながら食事を楽しんでいる姿が見られた。施設全体の行事やグループホーム独自の行事では特別食を作り、日本料理や回転ずしの外食、遠出時の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	GHメニュー以外の献立は管理栄養士が立てるが、調理担当者が旬のものを取り入れるなどアレンジしながら調理している。食事や水分量は毎回チェックし記録している。好き嫌いを把握し量が少ない時は好物なもので補うようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい水はお茶を用意し毎食後、個々の能力に応じた支援を必ず行っている。希望者には1回/週の歯科往診で医師・衛生士による口腔ケアの評価もしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導以外にも排泄パターンを把握して声掛けや誘導をしている。失禁があって夜間リハビリパンツ使用の利用者でも殆どの方が日中は布パンツ使用している	排泄パターンや定期的声かけなど自立に向けた支援によって常時オムツの人はなく、ほとんどの利用者が日中は布パンツか布パンツにパットで過ごしている。夜間のみオムツの人が2名いるが、布パンツにパットをつけて交換しながら過ごしている利用者が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導の度に排便を確認し便秘が続いた時は水分摂取量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳摂取・腹部マッサージをするなどして排泄を促している。看護師の指示により下剤のタイミングや量の調整を行い予防に努めている。最終排便日も記録している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けし入浴の意思や体調を確認しながら、3回/週の入浴を行っている。浴槽のまたぎが困難な利用者には個浴に設置してあるリフトを使用し安全に配慮している。温泉気分の入浴剤や菖蒲湯や柚子湯も楽しんでもらっている	火曜日以外週3回の午前・午後に入浴している。拒否の利用者はいないが、体調をみながらの個別な支援体制がある。浴槽のまたぎが困難な利用者2名は、リフトを使って入浴するので冬場でも温かく、また入浴剤やゆず湯などで変化をつけて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中でも居室で臥床する・ソファでくつろいでもらう等対応している。寝返りが困難な方は臥床時、定期的に体位交換を行い、安楽な体位で休息できるよう支援するとともに褥瘡予防に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと指示された薬剤を書面で確認しながら日勤・遅出勤務者で準備。服薬時も名前・日付を他スタッフとのダブルチェックにて確認しながら服薬している。症状の変化があれば主治医・看護師に報告し指示をもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの家事の分担や役割を持った生活を支援している。毎日の散歩を日課として季節の変化を感じてもらい、四季折々のフロア内の飾りつけなども手作業で一緒に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた行事(初詣・花見など)や外食・買い物・ドライブなどで外出する機会を多くもつようにしている。毎日の散歩では出会った方にこちらから挨拶するようにしている	天気のよい日には、車椅子の利用者も含めて全員がほぼ毎日散歩や外気浴を行っている。季節の花見として泉南のバラ園、初詣、地域のフェスティバル、栗拾いなどに車で出かけている。個別には買い物、カフェでのお茶・ケーキ、外食など、タイミングを合わせた支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	往診時の医療費や散髪他小口の支払いは家族からの預り金で支払いし管理している。個々に財布を持ってお金を所持したいという利用者もおられ家族同意のもと利用者自身で管理し買い物時に支払いしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	不安になると家族への電話を求められることも多々あり、その都度できるように支援しているが家族の負担にならないよう十分に話し合っている。携帯電話を所持している方もおられ、自身で管理し好きな時に好きな所に掛けてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の掃除は毎日行い清潔で明るい空間を維持できるよう心掛けている。行事の写真や季節に応じたものを装飾して話題の共有とともに心地よく過ごせるよう支援している	リビングは居室の中心にあり、テレビの前に3人掛けのソファが2脚と一人掛けもあり、利用者は思い思いに自由に過ごせるよう配慮されている。看護師さんの提案で職員と共に作った、兜の折り紙でうろこを付けた鯉のぼりの大作や折り紙の紙簾など、手作りした作品が飾られて共通の話題となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のペースで居室とリビングを行き来して過ごしてもらっている。また気の合う方同士がソファに座り個々に談笑されていたり、テーブル席の配慮にも努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の中で生活できるよう入居時には本人・家族と相談し馴染みの家具や置物・趣味の物を持参してもらっている。仏壇を持参されている方もおり毎日手をあわせておられる。家族様との写真や行事写真・塗り絵などの制作物も居室の壁に貼り付けている	洗面台・クローゼット・ベッド・エアコン・防災カーテンが備え付けられ、利用者は家族と相談した馴染みの家具を持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫がある。各部屋の一番目につく場所に、面会の家族や職員が一目でわかる体温と血圧のグラフが掛けられており、看護師さんの優しい心遣いが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起立しづらい方には自身で立ち上がりやすい椅子に座ってもらったり、手すりや杖などの補助具などを用い安全で自立した生活が送れるよう支援している		